

# この本と私

読むことで、  
書くことで、  
気付く  
判る

「仰木彬 夢実現の方程式」 永谷脩著

下位に低迷していたプロ野球チーム、近鉄とオリックスを優勝に導き、大リーガー選手となった野茂やイチローらを育てた仰木彬の組織作りと人材起用を書いた本です。筆者は、選手、監督の内面の取材が身上のスポーツライターです。野球を語りながらも、組織を活性させるのはリーダーであるとの見方が、野球ファン以外にも興味深いものと思われまます。さて、選手には超個性派がいて、基本通りでないコーチがいじりまわす場合が多いようです。野茂のトルネード、イチローの振り子打法はその筆頭でしょう。野茂は鈴木監督、イチローは土井監督と衝突し、二軍を経験しています。しかし、仰木は結果を出している内は口を出さず、個性を重視しました。「ああでもない、こうでもない」とあれこれ言っていると、やる気が半減してしまう。欠点を直して平均化するより、長所を伸ばして武器にした方がいい」と。仰木監督下での二人の活躍がその効果を証明しています。それから組織の活性化には選手を競わせること、現場では私情を挟まないこと、リーダーのイエスマンをそろえないこともあげています。試合中におけるデータの判断、グラウンドを降りてからの選手、コーチ、マスコミとのつきあい方など、常識や正論を打ち破る仰木監督のリーダーシップが見て取れます。組織の中での自分の活かし方、リーダーとなったときの部下の動かし方について、参考になるのではないのでしょうか。

F・M・

イースト・プレス

掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株)ファッションビジネス・御堂筋新聞